

糖尿病患者におけるインスリン注入器の使用感と有用性の比較検討

宮澤玲帆¹ 加藤文子¹ 岩田実紗¹ 巽康彰¹ 武藤達也² 加藤宏一¹

¹愛知学院大学 薬学部 医療薬学科 薬物治療学講座、²名鉄病院 薬剤部

【概要】

2018年10月13日・14日、名古屋で開催された「第7回日本くすりと糖尿病学会学術集会」に参加し、以下の研究内容を発表した。

【目的】

糖尿病のインスリン療法において、インスリン注入器の使用感はアドヒアランスに影響すると言われている。今回、糖尿病患者を対象にイノレット®(以下 IL)、フレックスタッチ®(以下 FT)、ミリオペン®(以下 MIR)、ソロスター®(以下 SOL)、フレックスペン®(以下 FLX)の5種の注入器の使用感についてのアンケート調査を行い、比較検討した。

【方法・対象】

対象は、小牧第一病院の糖尿病内科外来を受診し、インスリン療法を実施している糖尿病患者 21名である。使用感のアンケート項目は、クリック音、クリック感触、単位数字の読みやすさ、手の馴染みやすさ、単位表示の確認しやすさ、10、20、50単位の注入ボタンの押しやすさ、注入時の安定感、注入終了の確認しやすさ、総合評価の11項目とした。また、手の寸法データとして、手長、把持長などの測定を行い、使用感の評価との相関を解析した。

【結果】

アンケートの結果、「単位増(または減)量時のクリック音・感触」の4項目について FLX が有意に高評価であった。「注入ボタンの押しやすさ(50単位)」では、FT4.1±1.1点、IL2.7±1.1点、SOL2.3±0.8点、MIR2.2±0.9点、FLX1.8±0.9点と FT が有意に高評価であった。FT 以外の4種は単位数が増加するほど「注入ボタンの押しやすさ」

の評価は低下したが、FT のみ高評価のままであった。「総合評価」では、FT4.5±0.7点、MIR3.2±0.8点、SOL3.0±0.6点、IL3.0±1.3点、FLX2.5±0.7点と FT が有意に高評価であった。IL は、「数字の読みやすさ」や「確認のしやすさ」において高評価であった。MIR に関しては、「把持長」や「手長」と「注入ボタンの押しやすさ」に負の相関が見られ、手の小さい人ほど押しやすい結果であった。

会社	インスリン注入器	使用経験の割合%(人数)
ノボ ノルディスク ファーマ 株式会社	イノレット®	24%(10人)
ノボ ノルディスク ファーマ 株式会社	フレックスタッチ®	31%(13人)
日本イーライリリー 株式会社	ミリオペン®	36%(15人)
サノフィ・アベンティス 株式会社	ソロスター®	2%(1人)
ノボ ノルディスク ファーマ 株式会社	フレックスペン®	7%(3人)

【考察】

インスリン注入器の選択では、患者の年齢や視力、聴力、手の大きさや各デバイスの特徴を参考に患者の嗜好性を考慮して、個々の患者に合った注入器選択が必要である。

【感想】

第7回日本くすりと糖尿病学会学術集会に参加させていただきました。発表に関しては、実務実習中の参加でもあり、準備・練習に時間を十分にかげられず不安なことが多かったのですが、無事に発表を終えることができました。ディスカッションでは、多くのご意見やご指摘をいただき、自分の知識不足、まだまだ学ぶべきことが多いことを痛感しました。

準備ではインスリン注入器に関する情報の収集・知識を得ることから始まり、研究発表に至るまで多くの方に力を貸していただきました。当日の発表は、親身になってご指導くださった加藤宏一教授、巽康彰講師、加藤文子助教、そして薬物治療学講座の皆さん、会場へ足を運んでくださった先輩方のサポートのおかげで成し遂げることができたと思っております。このような経験は、今後の学生生活の糧になることと思います。

学会参加を通じて、研究には臨床現場の様々な状況や多くの人に関わっていることを実感し、大変勉強になりました。また、「患者」と「くすり」をつなぐ薬剤師の姿を目にすることから多くのことを学び、貴重な経験となりました。

最後になりましたが、援助して下さった愛知学院大学薬学会に感謝申し上げます。

